



「村民と行政が一つにまとまり未来を切り開いていくことが大切」と所信を表明する深渡宏村長

# みんなの瞳が、村づくりを見つめています



未来へ素敵な村を引き継ぐことが大人の役目です

平成20年度第2回村議会定例会が3月4日から7日までの4日間開かれ、20年度の予算など27議案が原案通り可決されました。

初日の施政方針演説で深渡宏村長は「地域資源を活かした特色ある村づくりを進めます」と所信を表明。村政全般の考えを明らかにしました。今月は村の未来を見据えた施政方針演説の主な内容、20年度の予算、村議会定例会の一般質問などについてお知らせします。

## 特色ある地域づくりが必要

国内経済は上昇を続けている現状と言われる中で、地方では財政破綻に陥る自治体が出るなど、格差の拡大による国民不安は依然として解消できない状況が続いています。村内経済を省みずと原油価格の高騰により各種産業が大打撃を受けている状況で

国内経済は上昇を続けている現状と言われる中で、地方では財政破綻に陥る自治体が出るなど、格差の拡大による国民不安は依然として解消できない状況が続いています。村内経済を省みずと原油価格の高騰により各種産業が大打撃を受けている状況で

す。今後、漁業生産者、漁業協同組合、行政が一体となり本村漁業の再生に取り組みしなければなりません。幸い岩手県が県北沿岸振興を打ち出し、地域格差の解消に取り組み始めました。本村としても希望を持ち、県と連携して課題解決に向け取り組みたいと考えています。農業については、県内6農協構想に向けた財政健全化

対策なども打ち出され、先行き不透明な状況の中、本村は県営農地開発事業による債務負担など多くかかえ、これら解消に向けての取り組みが

重要な課題となっています。今後は「地域資源を活かした特色のある地域づくり」が求められ、これに向けての努力が必要と考えています。

## 安心して暮らせる村に努力

本村を含む岩手県沿岸は津波常襲地帯で、過去において多くの尊い村民の生命や貴重な財産が失われました。今後、宮城県沖地震の発生

津波対策が急務と考えています。今、津波防災マップを基に、村民の皆さまへの啓発に努めるとともに津波からの避難者、地震防災対策に関する各種計画の作成に取り組んでい

村民の生命と財産を守り「安心して暮らせる村づくり」のため一層努力する所存です。今や地方自治体を取り巻く環境は、大きな転換期を迎えています。本村でも、この厳しい時代を乗り切るために、新たな時代に対応できる「地域資源を活かした特色ある村づくり」が、幅広い観点から希求されています。国は、地方分権改革推進法を成立させるとともに「頑張

本村は、諸般の事情により、旧合併特例法の下では合併には至らなかったことから、当面は自立を目指しての村政運営に取り組んでいきます。これからは、久慈広域管内3市町村と現在大型事業に取り組んでいる下閉伊2町村との広範な連携を強めて行く中で、単独村政を進めたいと考えています。また、久慈地区広域行政事務組合の広域連合組織への統合協議も完結し、久慈広域連合として本年4月からスタートすることになりました。

さまざまな国民負担を法制化し、地方自治体は厳しい行政運営を強いられています。今こそ、村民一丸となって村政運営を進めていかなければなりません。そして夢や希望を実現させていくため、特色ある地域づくりに取り組み、変革を恐れない勇気、そして未来への希望を失わない目標への強い意志、苦しさから立ち上がるやる気を持つ、強靱さが必要だと思います。誰もが普代村に誇りを持ち、恵まれた自然や歴史、文化などの資源を活かし、痛みや苦しみを共有し、新総合発展計画の基本理念とする「地域資源を自ら活かし、自立する村づくり」に、元気を出して村民が一つにまとまり、共に未来を切り開いていくことが、私に課せられた責務であると深く認識し、精一杯努力する所存です。

## 財政の健全化を重要課題に

### 村民が夢を持てる村目指す

る地方応援プログラム」などを導入するなど、地方の自主性を高めた一層の自己改革を求めています。

本村でも、財政の健全化など山積する課題に適切に対応しながら「北緯40度東端の地球村」構想実現に向け、さらに力強い取り組みを行うことが必要であると考えています。

赤字が続く第3セクター・三陸鉄道の運営については、三陸沿岸地域に於いては、通学・通院など地域住民にとって重要な役割を担っており、今後も支援を行っていくとともに、利用促進を図り維持・存続に努力致します。

今、県は厳しい財政状況の中で県北沿岸振興を掲げ、国は行財政改革、地方分権、市町村合併の継続、さらにはさ

村民の皆さま、議会議員の皆さまのご理解、ご協力、そして村づくりへの積極的なご参加をお願い申し上げます。